

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)マックスバリュ城野 新築	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう
2 地球温暖化対策の推進	3.4 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
<b>1 循環型社会への貢献</b>		<b>スコア平均 2.9</b>	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア <b>2.5</b>	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア <b>3</b> スコア <b>3.1</b>
<自由記述>		<自由記述>	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		<b>スコア平均 3.4</b>	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア <b>3.8</b>	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア <b>3</b>
<自由記述>		<自由記述>	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		<b>スコア平均 1.7</b>	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア <b>1</b>	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア <b>2</b> スコア <b>2</b>
<自由記述>		<自由記述>	
<b>4 高齢社会への対応</b>		<b>スコア平均 3.0</b>	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア <b>3</b>	<b>主な指標</b> 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 <b>0.88</b> 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: - <b>0.72</b> 外構緑化指数 <b>5</b> % 建物緑化指数 <b>20</b> %	
<自由記述>			

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ城野 新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区富士見一	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年10月10日
敷地面積	9,114 m <sup>2</sup>	作成者	高地俊成
建築面積	3,346 m <sup>2</sup>	確認日	2022年10月11日
延床面積	6,371 m <sup>2</sup>	確認者	久保隆一

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
階高をできるだけ低く抑え、圧迫感を感じさせないような建物とした。	0
<b>Q1 室内環境</b> 陳列棚の通路幅を1.5m以上取ることでゆとりのある空間とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 多目的トイレにオストメイトを設置した。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物出入口付近に車いす用の駐車場を配置した。	
<b>LR1 エネルギー</b> 外壁全体を断熱し、省エネ適判にも適合させた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマ付きの水道蛇口とした。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 室外機置場を屋外に設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)マックスパルク城野 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>1.8</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	1.00				
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.1</b>	0.35				<b>1.1</b>
2.1 室温制御				<b>1.3</b>	0.50				
1 室温		省エネ適判対象		1.0	0.50				
2 外皮性能				3.0	0.17				
3 ゾーン別制御性				1.0	0.33				
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.0</b>	0.25				<b>2.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.50				
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	1.00				
3.2 グレア対策									
1 昼光制御				<b>3.0</b>					
3.3 照度									
3.4 照明制御				<b>1.0</b>	0.50				
<b>4 空気質環境</b>				<b>2.3</b>	0.25				<b>2.3</b>
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>			
4.2 換気				<b>2.0</b>	0.30				
1 換気量				<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>			
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.50				
4.3 運用管理				<b>1.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>1.0</b>	0.50				
2 喫煙の制御				<b>1.0</b>	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40				<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>					
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00				
1.2 心理性・快適性				<b>2.6</b>	0.30				
1 広さ感・景観				<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>			
2 リフレッシュスペース				<b>2.0</b>	0.33				
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33	<b>1.0</b>			
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		F☆☆☆☆の材料を採用している。		<b>4.0</b>	0.50				
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30				<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80				
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
2.4 信頼性				<b>3.0</b>	0.20				
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20				
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20				
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20				
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20				
5 通信・情報設備				<b>3.0</b>	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高H=3,500とした。	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		-	1.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
1 生物環境の保全と創出		-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ適判に適合させた。	3.6	0.50	-	-	3.6
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		-	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		-	3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	-	
3 冷媒		CO2冷媒冷凍機	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO279%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用せず、電気給湯器を使用した。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な量の駐車・駐輪スペースを確保した。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	0.33	-	-	
2 振動		-	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		-	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0	-	○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	2.0	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 屋光率 0.0% 自然換気有効開口面積率 3.3%
3.1.1 屋光率	
4.2.2 自然換気性能	
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 30 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.4 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 8.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 2900 N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 34% 建物緑化指数 6%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 20% 水平投影面積率 5% 地表面対策面積率 7% 舗装面積率 3%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 1.00 断熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.77 住宅 0.77 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 44% 隣棟間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 14.0% 屋根面対策面積率 16.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 200 m 基準高さHb 450 m 緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 300㎡